

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン トウキョウゲイジュツダイガク 国立大学法人 東京芸術大学								
フリガナ大学の名称	トウキョウゲイジュツダイガクダイガクイン 東京芸術大学大学院 (Tokyo University of the Arts Graduate School)								
大学の位置	東京都台東区上野公園12番8号								
大学の目的	東京芸術大学大学院は、より広い視野に立って芸術についての精深な学識と技術を授け、芸術の各分野における創造、表現、研究能力又は芸術に関する職業等に必要の高度の能力を養い、さらには自立して創作、研究活動を行なうに必要な高度の能力を備えた研究者を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	大学院国際芸術表現研究科に新たに設置する本専攻は、博士課程後期において、「修士課程において培った卓越した実践力に加え、さらに高度な理論・方法論、課題解決能力を備えた高度な人材育成」を行い、「本研究科の教育研究水準を世界最高水準まで高め」、ひいては「文化芸術立国としての我が国のプレゼンスを向上」させていくべく、「新たな領域を開拓し、イノベーションにつながるような新しい理論・方法論を構築できる人材育成」を目指す。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	国際芸術創造研究科 博士後期課程アートプロデュース専攻 [Arts Studies and Curatorial Practices] 計	3年	5人	0人	15人	博士(学術)	H30. 4. 1 第1年次	東京都足立区千住1-25-1及び東京都台東区上野公園12-8	
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	大学院 音楽研究科博士後期課程音楽専攻〔定員減〕△5 国際芸術創造研究科博士後期課程アートプロデュース専攻〔新設〕 5							基礎となる学部等 大学院国際芸術創造研究科修士課程アートプロデュース専攻	
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻	講義	演習	実験・実習	計	10単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	国際芸術創造研究科【博士後期課程】 アートプロデュース専攻	教授	准教授	講師	助教	計		助手
		計	4人 (4)	1人 (1)	1人 (1)	0人 (0)	6人 (6)	0人 (0)	0人 (0)
	既設	美術研究科【修士課程】 絵画専攻	12 (12)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	19 (19)	0 (0)	14 (14)
		彫刻専攻	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	7 (7)
		工芸専攻	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	15 (15)
		デザイン専攻	5 (5)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	25 (25)
		建築専攻	5 (5)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	7 (7)
		芸術学専攻	7 (7)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	17 (17)	0 (0)	15 (15)
		文化財保存学専攻	12 (12)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	21 (21)
		先端芸術表現専攻	7 (7)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	9 (9)
		グローバルアート プラクティス専攻	4 (4)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	8 (8)	0 (0)	1 (1)
		美術研究科【博士後期課程】 美術専攻	53 (53)	30 (30)	1 (1)	12 (12)	96 (96)	0 (0)	0 (0)
	文化財保存学専攻	12 (12)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	

教 員 組 織 の 概 要	既 設 分	音楽研究科 【修士課程】	作曲専攻	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	23 (23)	
			声楽専攻	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	27 (27)	
			オペラ専攻	3 (3)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	10 (10)	0 (0)	23 (23)	
			器楽専攻	13 (13)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	126 (126)	
			指揮専攻	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (0)	0 (0)	19 (19)	
			邦楽専攻	3 (3)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	33 (33)	
			音楽文化学専攻	12 (12)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	159 (159)	
			音楽研究科 【博士後期課程】	音楽専攻	40 (40)	34 (34)	0 (0)	1 (1)	75 (75)	0 (0)	0 (0)
			映像研究科 【修士課程】	映画専攻	8 (8)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	12 (12)
				メディア映像専攻	4 (4)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	9 (9)
				アニメーション専攻	4 (4)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	13 (13)
			映像研究科 【博士後期課程】	映像メディア専攻	16 (16)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	20 (20)	0 (0)	0 (0)
			国際芸術創造研究科 【修士課程】	アートプロデュー ス専攻	4 (4)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	8 (8)	0 (0)	7 (7)
				計	249 (249)	139 (139)	3 (3)	41 (41)	432 (432)	0 (0)	565 (565)
				合計	253 (253)	140 (140)	4 (4)	41 (41)	438 (438)	0 (0)	565 (565)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計				
	事 務 職 員		128 人 (128)		67 人 (67)		195 人 (195)				
	技 術 職 員		10 (10)		2 (2)		12 (12)				
	図 書 館 専 門 職 員		10 (10)		0 (0)		10 (10)				
	そ の 他 の 職 員		2 (2)		11 (11)		13 (13)				
	計		150 (150)		80 (80)		230 (230)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計					
	校 舎 敷 地	235,922 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		235,922 m <sup>2</sup>					
	運 動 場 用 地	6,640 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		6,640 m <sup>2</sup>					
	小 計	242,562 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		242,562 m <sup>2</sup>					
	そ の 他	19,500 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		19,500 m <sup>2</sup>					
	合 計	262,062 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		262,062 m <sup>2</sup>					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計						
	116,015 m <sup>2</sup> ( 116,015 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	20,205 m <sup>2</sup> ( 20,205 m <sup>2</sup> )		136,220 m <sup>2</sup> ( 136,220 m <sup>2</sup> )						
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設						
	45 室	36 室	612 室	9 室 (補助職員 0 人)	7 室 (補助職員 0 人)						
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数							
	国際芸術創造研究科アートプロ デュース専攻博士後期課程			6 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能のため 大学全体の数			
	国際芸術創造研究科 博士後期課程アートプロ デュース専攻	322,491 [123,223] (322,491 [123,223])	5,974 [2,012] (5,974 [2,012])	911 [344] (911 [344])	28,335 (28,335)	0 (0)	0 (0)				
	計	322,491 [123,223] (322,491 [123,223])	5,974 [2,012] (5,974 [2,012])	911 [344] (911 [344])	28,335 (28,335)	0 (0)	0 (0)				
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数						
	2,263 m <sup>2</sup>		146 席		320,000 冊						
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要								
	2,106 m <sup>2</sup>										

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		教員1人当り研究費等	-	-	-	-	-	-		-
		共同研究費等	-	-	-	-	-	-		-
		図書購入費	-	-	-	-	-	-		-
		設備購入費	-	-	-	-	-	-		-
学生1人当り納付金	第1年次 - 千円	第2年次 - 千円	第3年次 - 千円	第4年次 - 千円	第5年次 - 千円	第6年次 - 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			-							
大学の名称 東京芸術大学										
既設大学の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	美術学部									
	絵画科	4	80	0	320	学士(美術)	1.03	昭和24年度	東京都台東区上野公園12-8	
	彫刻科	4	20	0	80	学士(美術)	1.05	昭和24年度	東京都台東区上野公園12-8	
	工芸科	4	30	0	120	学士(美術)	1.05	昭和24年度	東京都台東区上野公園12-8	
	デザイン科	4	45	0	180	学士(美術)	1.03	昭和50年度	東京都台東区上野公園12-8	
	建築科	4	15	0	60	学士(美術)	1.01	昭和24年度	東京都台東区上野公園12-8	
	先端芸術表現科	4	24	0	96	学士(美術)	1.12	平成11年度	茨城県取手市小文間5000	
	芸術学科	4	20	0	80	学士(美術)	1.05	昭和24年度	東京都台東区上野公園12-8	
	小計		234	0	936		1.04			
	音楽学部									
	作曲科	4	15	0	60	学士(音楽)	1.00	昭和24年度	東京都台東区上野公園12-8	
	声楽科	4	54	0	216	学士(音楽)	1.00	昭和24年度	東京都台東区上野公園12-8	
	器楽科	4	98	0	392	学士(音楽)	1.04	昭和24年度	東京都台東区上野公園12-8	
	指揮科	4	2	0	8	学士(音楽)	0.87	昭和24年度	東京都台東区上野公園12-8	
	楽理科	4	23	0	92	学士(音楽)	1.01	昭和24年度	東京都台東区上野公園12-8	
	邦楽科	4	25	0	100	学士(音楽)	0.93	昭和25年度	東京都台東区上野公園12-8	
	音楽環境創造科	4	20	0	80	学士(音楽)	1.02	平成14年度	東京都足立区千住1-25-1	
	小計		237	0	948		1.01			
美術研究科(修士課程)										
絵画専攻	2	50	0	100	修士(美術)	1.14	昭和38年度	東京都台東区上野公園12-8		
彫刻専攻	2	13	0	26	修士(美術)	1.38	昭和38年度	東京都台東区上野公園12-8		
工芸専攻	2	26	0	52	修士(美術)	1.20	昭和38年度	東京都台東区上野公園12-8		
デザイン専攻	2	30	0	60	修士(美術)	1.21	昭和50年度	東京都台東区上野公園12-8		
建築専攻	2	18	0	36	修士(美術)	1.05	昭和38年度	東京都台東区上野公園12-8		
芸術学専攻	2	21	0	42	修士(美術)	0.92	昭和38年度	東京都台東区上野公園12-8		
文化財保存学専攻	2	18	0	36	修士(文化財)	1.08	平成7年度	東京都台東区上野公園12-8		
先端芸術表現専攻	2	22	0	44	修士(芸術表現)	1.15	平成15年度	茨城県取手市小文間5000		
グローバルアートプラクティス専攻	2	18	0	36	修士(美術)	1.00	平成28年度	東京都台東区上野公園12-8		
小計		216	0	432		1.12				

既設 大 学 等 の 状 況	音楽研究科（修士課程）											
	作曲専攻	2	7	0	14	修士（音楽）	0.71	昭和38年度	東京都台東区上野公園12-8			
	声楽専攻	2	12	0	24	修士（音楽）	1.12	昭和38年度	東京都台東区上野公園12-8			
	オペラ専攻	2	8	0	16	修士（音楽）	1.06	昭和38年度	東京都台東区上野公園12-8			
	器楽専攻	2	45	0	90	修士（音楽）	1.29	昭和38年度	東京都台東区上野公園12-8			
	指揮専攻	2	3	0	6	修士（音楽）	0.33	昭和38年度	東京都台東区上野公園12-8			
	邦楽専攻	2	9	0	18	修士（音楽）	0.60	昭和38年度	東京都台東区上野公園12-8			
	音楽文化学専攻	2	29	0	58	修士（音楽）	0.82	平成18年度	東京都台東区上野公園12-8			
	小計		113	0	226		1.02					
	映像研究科（修士課程）											
	映画専攻	2	32	0	64	修士（映像）	1.03	平成17年度	神奈川県横浜市中区本町4-44			
	メディア映像専攻	2	16	0	32	修士（映像）	0.84	平成18年度	神奈川県横浜市中区山下町116			
	アニメーション専攻	2	16	0	32	修士（映像）	0.96	平成20年度	神奈川県横浜市中区海岸通4-23			
	小計		64	0	128		0.96					
	国際芸術創造研究科（修士課程）											
	アートプロデュース専攻	2	10	0	20	修士（学術）	1.30	平成28年度	東京都足立区千住1-25-1			
美術研究科（博士後期課程）												
美術専攻	3	25	0	75	博士（美術/学術）	1.33	昭和52年度	東京都台東区上野公園12-8				
文化財保存学専攻	3	10	0	30	博士（文化財）	0.93	平成7年度	東京都台東区上野公園12-8				
小計		35	0	105		1.21						
音楽研究科（博士後期課程）												
音楽専攻	3	25	0	75	博士（音楽/音楽学/学術）	0.76	昭和52年度	東京都台東区上野公園12-8				
映像研究科（博士後期課程）												
映像メディア学専攻	3	3	0	9	博士（映像/学術）	0.99	平成19年度	神奈川県横浜市中区本町4-44				
附属施設の概要	<p>名称：東京芸術大学大学美術館  目的：美術館  所在地：東京都台東区上野公園12番8号  規模等：建物 13,854㎡ 収蔵品 29,348点</p> <p>名称：東京芸術大学奏楽堂  目的：コンサートホール  所在地：東京都台東区上野公園12番8号  規模等：建物 6,540㎡ 座席数 1,100席</p>											

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

## 東京芸術大学 設置認可等に関する組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>東京芸術大学</b>				<b>東京芸術大学</b>				
<b>美術学部</b>				<b>美術学部</b>				
絵画科	80	-	320	絵画科	80	-	320	
彫刻科	20	-	80	彫刻科	20	-	80	
工芸科	30	-	120	工芸科	30	-	120	
デザイン科	45	-	180	デザイン科	45	-	180	
建築科	15	-	60	建築科	15	-	60	
先端芸術表現科	24	-	96	先端芸術表現科	24	-	96	
芸術学科	20	-	80	芸術学科	20	-	80	
<b>音楽学部</b>				<b>音楽学部</b>				
作曲科	15	-	60	作曲科	15	-	60	
声楽科	54	-	216	声楽科	54	-	216	
器楽科	98	-	392	器楽科	98	-	392	
指揮科	2	-	8	指揮科	2	-	8	
楽理科	23	-	92	楽理科	23	-	92	
邦楽科	25	-	100	邦楽科	25	-	100	
音楽環境創造科	20	-	80	音楽環境創造科	20	-	80	
計	471	-	1,884	計	471	-	1,884	
<b>東京芸術大学大学院</b>				<b>東京芸術大学大学院</b>				
<b>美術研究科</b>				<b>美術研究科</b>				
絵画専攻(M)	50	-	100	絵画専攻(M)	50	-	100	
彫刻専攻(M)	13	-	26	彫刻専攻(M)	13	-	26	
工芸専攻(M)	26	-	52	工芸専攻(M)	26	-	52	
デザイン専攻(M)	30	-	60	デザイン専攻(M)	30	-	60	
建築専攻(M)	18	-	36	建築専攻(M)	18	-	36	
芸術学専攻(M)	21	-	42	芸術学専攻(M)	21	-	42	
文化財保存学専攻(M)	18	-	36	文化財保存学専攻(M)	18	-	36	
先端芸術表現専攻(M)	22	-	44	先端芸術表現専攻(M)	22	-	44	
グローバルアートプラクティス専攻(M)	18	-	36	グローバルアートプラクティス専攻(M)	18	-	36	
美術専攻(D)	25	-	75	美術専攻(D)	25	-	75	
文化財保存学専攻(D)	10	-	30	文化財保存学専攻(D)	10	-	30	
<b>音楽研究科</b>				<b>音楽研究科</b>				
作曲専攻(M)	7	-	14	作曲専攻(M)	7	-	14	
声楽専攻(M)	12	-	24	声楽専攻(M)	12	-	24	
オペラ専攻(M)	8	-	16	オペラ専攻(M)	8	-	16	
器楽専攻(M)	45	-	90	器楽専攻(M)	45	-	90	
指揮専攻(M)	3	-	6	指揮専攻(M)	3	-	6	
邦楽専攻(M)	9	-	18	邦楽専攻(M)	9	-	18	
音楽文化学専攻(M)	29	-	58	音楽文化学専攻(M)	29	-	58	
音楽専攻(D)	25	-	75	音楽専攻(D)	<u>20</u>	-	<u>60</u>	定員変更(△5)
<b>映像研究科</b>				<b>映像研究科</b>				
映画専攻(M)	32	-	64	映画専攻(M)	32	-	64	
メディア映像専攻(M)	16	-	32	メディア映像専攻(M)	16	-	32	
アニメーション専攻(M)	16	-	32	アニメーション専攻(M)	16	-	32	
映像メディア学専攻(D)	3	-	9	映像メディア学専攻(D)	3	-	9	
<b>国際芸術創造研究科</b>				<b>国際芸術創造研究科</b>				
アートプロデュース専攻(M)	10	-	20	アートプロデュース専攻(M)	10	-	20	
アートプロデュース専攻(D)	5	-	15	アートプロデュース専攻(D)	<u>5</u>	-	<u>15</u>	課程変更(意見伺い)
計	466	-	995	計	466	-	995	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻 (D))														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
選 択 必 修 科 目	博士専門科目Ⅰ（アートマネジメントⅠ）	1通		2				○		1				
	博士専門科目Ⅰ（アートマネジメントⅡ）	1通		2				○			1			
	博士専門科目Ⅰ（リサーチⅠ）	1通		2				○		1				
	博士専門科目Ⅰ（リサーチⅡ）	1通		2				○		1				
	博士専門科目Ⅰ（キュレーションⅠ）	1通		2				○		1				
	博士専門科目Ⅰ（キュレーションⅡ）	1通		2				○			1			
	博士専門科目Ⅱ（アートマネジメントⅠ）	2通		2				○		1				
	博士専門科目Ⅱ（アートマネジメントⅡ）	2通		2				○			1			
	博士専門科目Ⅱ（リサーチⅠ）	2通		2				○		1				
	博士専門科目Ⅱ（リサーチⅡ）	2通		2				○		1				
	博士専門科目Ⅱ（キュレーションⅠ）	2通		2				○		1				
	博士専門科目Ⅱ（キュレーションⅡ）	2通		2				○			1			
	小計（12科目）	—		24				—		4	1	1		
	博士特別研究Ⅰ（アートマネジメントⅠ）	1通		2				○		1				
	博士特別研究Ⅰ（アートマネジメントⅡ）	1通		2				○			1			
	博士特別研究Ⅰ（リサーチⅠ）	1通		2				○		1				
	博士特別研究Ⅰ（リサーチⅡ）	1通		2				○		1				
	博士特別研究Ⅰ（キュレーションⅠ）	1通		2				○		1				
	博士特別研究Ⅰ（キュレーションⅡ）	1通		2				○			1			
	博士特別研究Ⅱ（アートマネジメントⅠ）	2通		2				○		1				
	博士特別研究Ⅱ（アートマネジメントⅡ）	2通		2				○			1			
	博士特別研究Ⅱ（リサーチⅠ）	2通		2				○		1				
	博士特別研究Ⅱ（リサーチⅡ）	2通		2				○		1				
	博士特別研究Ⅱ（キュレーションⅠ）	2通		2				○		1				
	博士特別研究Ⅱ（キュレーションⅡ）	2通		2				○			1			
小計（12科目）	—		24				—		4	1	1			
研究領域特別研究指導	1～3通	—						○		4	1	1		
小計（1科目）	—						—		4	1	1			
合計（25科目）	—		48				—		4	1	1			
学位又は称号	博士（学術）			学位又は学科の分野				美術関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
3年以上在学し、以下の科目から計10単位以上を修得し、研究領域特別研究指導を受けた上で、論文の審査及び最終試験に合格すること。 なお、アートマネジメント研究領域及びキュレーション研究領域の学生に関しては、博士論文に併せて研究課題に関わる実践活動（展覧会、演奏会、アートイベント等）の成果報告書を提出し、博士論文とともに論文審査の対象とすることができる。 ・選択必修科目（自身の専攻分野の博士専門科目・博士特別研究をそれぞれ4単位の計8単位。） ・大学院開設科目（2単位以上。東京芸術大学大学院の研究科で開設されている科目のうち、自専攻領域以外の科目で、かつ各自の研究課題を踏まえた主任指導教員の指導に基づき、幅広い視野や研究者としての知識・技能を獲得するために必要な科目を選択・履修する。）								1学年の学期区分				2学期		
								1学期の授業期間				15週		
								1時限の授業時間				90分		

教 育 課 程 等 の 概 要

（大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻（D））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択必修科目	博士専門科目Ⅰ（キュレーションⅠ）	1通		2			○		1						
	博士専門科目Ⅰ（キュレーションⅡ）	1通		2			○			1					
	博士専門科目Ⅱ（キュレーションⅠ）	2通		2			○		1						
	博士専門科目Ⅱ（キュレーションⅡ）	2通		2			○			1					
	小計（4科目）	—		8			—		1	1					
	博士特別研究Ⅰ（キュレーションⅠ）	1通		2			○		1						
	博士特別研究Ⅰ（キュレーションⅡ）	1通		2			○			1					
	博士特別研究Ⅱ（キュレーションⅠ）	2通		2			○		1						
	博士特別研究Ⅱ（キュレーションⅡ）	2通		2			○			1					
	小計（4科目）	—		8			—		1	1					
	研究領域特別研究指導	1～3通	—				○		1	1					
	小計（1科目）	—					—		1	1					
合計（9科目）		—		16			—		1	1					
学位又は称号		博士（学術）			学位又は学科の分野			美術関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>3年以上在学し、以下の科目から計10単位以上を修得し、研究領域特別研究指導を受けた上で、論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>なお、アートマネジメント研究領域及びキュレーション研究領域の学生に関しては、博士論文に併せて研究課題に関わる実践活動（展覧会、演奏会、アートイベント等）の成果報告書を提出し、博士論文とともに論文審査の対象とすることができる。</p> <p>・選択必修科目（自身の専攻分野の博士専門科目・博士特別研究をそれぞれ4単位の計8単位。）</p> <p>・大学院開設科目（2単位以上。東京芸術大学大学院の研究科で開設されている科目のうち、自専攻領域以外の科目で、かつ各自の研究課題を踏まえた主任指導教員の指導に基づき、幅広い視野や研究者としての知識・技能を獲得するために必要な科目を選択・履修する。）</p>								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

（大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻（D））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択必修科目	博士専門科目Ⅰ（アートマネジメントⅠ）	1通		2				○		1					
	博士専門科目Ⅰ（アートマネジメントⅡ）	1通		2				○			1				
	博士専門科目Ⅰ（リサーチⅠ）	1通		2				○		1					
	博士専門科目Ⅰ（リサーチⅡ）	1通		2				○		1					
	博士専門科目Ⅱ（アートマネジメントⅠ）	2通		2				○		1					
	博士専門科目Ⅱ（アートマネジメントⅡ）	2通		2				○			1				
	博士専門科目Ⅱ（リサーチⅠ）	2通		2				○		1					
	博士専門科目Ⅱ（リサーチⅡ）	2通		2				○		1					
	小計（8科目）	—		16				—		3		1			
	博士特別研究	博士特別研究Ⅰ（アートマネジメントⅠ）	1通		2				○		1				
	博士特別研究Ⅰ（アートマネジメントⅡ）	1通		2					○			1			
	博士特別研究Ⅰ（リサーチⅠ）	1通		2					○		1				
	博士特別研究Ⅰ（リサーチⅡ）	1通		2					○		1				
	博士特別研究Ⅱ（アートマネジメントⅠ）	2通		2					○		1				
	博士特別研究Ⅱ（アートマネジメントⅡ）	2通		2					○			1			
博士特別研究Ⅱ（リサーチⅠ）	2通		2					○		1					
博士特別研究Ⅱ（リサーチⅡ）	2通		2					○		1					
小計（8科目）	—		16					—		3		1			
研究領域特別研究指導	1～3通	—						○		3		1			
小計（1科目）	—							—		3		1			
合計（17科目）		—		32				—		3		1			
学位又は称号	博士（学術）		学位又は学科の分野			美術関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>3年以上在学し、以下の科目から計10単位以上を修得し、研究領域特別研究指導を受けた上で、論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>なお、アートマネジメント研究領域及びキュレーション研究領域の学生に関しては、博士論文に併せて研究課題に関わる実践活動（展覧会、演奏会、アートイベント等）の成果報告書を提出し、博士論文とともに論文審査の対象とすることができる。</p> <p>・選択必修科目（自身の専攻分野の博士専門科目・博士特別研究をそれぞれ4単位の計8単位。）</p> <p>・大学院開設科目（2単位以上。東京芸術大学大学院の研究科で開設されている科目のうち、専攻領域以外の科目で、かつ各自の研究課題を踏まえた主任指導教員の指導に基づき、幅広い視野や研究者としての知識・技能を獲得するために必要な科目を選択・履修する。）</p>						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						



## 授業科目の概要

(大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻(D))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	博士専門科目Ⅰ (アートマネジメントⅠ)	アートマネジメントの諸相を、理論的に深く掘り下げて論じるゼミナール。 ①芸術と社会との関係について、主に芸術の側から論じた文献講読や、具体的な文化事業の事例及びその資料などの分析。 ②学生による学位論文や学会発表に向けた構想のプレゼンテーションとディスカッション。	
	博士専門科目Ⅰ (アートマネジメントⅡ)	海外のアートマネジメント専門紙誌、非営利セクターのコンサートホール・アートセンター、音楽祭やアートプロジェクトの年次報告書、各国のアート・カウンシルや公的芸術支援機関の研究レポート等の原文講読と比較検証を通じ、内外の劇場・音楽堂のArtistic Administrationの基本的思想と姿勢、多様多岐にわたる専門実務家を統括するプロジェクトエディター(編集長)の統合的ノウハウの蓄積、国際プロジェクト展開に際して要求される質量ともに高水準の見識や人脈の現状等、具体的な研究課題を探り、論考・発表を行う。	
	博士専門科目Ⅰ (キュレーションⅠ)	近現代芸術の基礎となっているモダニズムの問題と修復を、ポストコロニアリズム、ポストアヴァンギャルドの後にくる理論を検証する先行研究について、文献購読と参加者の発表によって行う。この過程を通してリサーチ、論文構成などの指導を行う。ポストコロニアリズムの代表的研究者が時代に呼応し、研究の対象や方法論を変更しつつある過程を研究することも目的となる。 文献例：ホミバーバ(死と戦争、テロの問題についての新刊)、サラトマハラージ(ポストコロニアリズムへの別離についての新刊)の最近研究。	
	博士専門科目Ⅰ (キュレーションⅡ)	西欧モダニズムを再考する先行研究を題材に、文献購読と参加者の発表によって議論をおこなう。 文献例：Blake Stimson and Gregory Sholette, eds. Collectivism after Modernism: The Art of Social Imagination after 1945, Minneapolis: University of Minnesota Press, 2007 など。	
	博士専門科目Ⅰ (リサーチⅠ)	社会における芸術文化の役割を考えるための基本的な文献を講読するとともに、グローバル化とデジタルメディアの一般化によって変容しつつある現代社会における文化や芸術と政治や経済の関係を考察する。また参加者の研究の進捗状況を定期的に報告する場として演習を活用し、博士論文執筆のための指導を行う。	
	博士専門科目Ⅰ (リサーチⅡ)	文化経済学は当初欧州の研究者が中心となっていたため、演習では欧文の文献も用いて読みこなす。そこでは、芸術作品が貨幣交換可能か、あるいは国際文化経済学会会長(スロスビー)等が唱える固有価値論による芸術財の公共財論について、文献等を基に議論するほか、博士論文執筆のための基礎的知識・手法を学ぶ。	
	博士専門科目Ⅱ (アートマネジメントⅠ)	アートマネジメントの諸相を、理論的に掘り下げて論じるゼミナール。 ①芸術と社会との関係について、主に社会の側から論じた文献講読や、具体的な政策事案及びその資料などの分析。 ②学生による学位論文や学会発表に向けた構想のプレゼンテーションとディスカッション。	
	博士専門科目Ⅱ (アートマネジメントⅡ)	1年次の博士専門科目Ⅰで得た研究課題を巡る考察を深め、実践的なフィールドワークや内外の研究者との積極的な意見交換の機会を持つとともに、研究領域に隣接する分野への理解と学際的連結の可能性の検討を行う。併せて、博士論文執筆の課題設定に必要な文献調査と講読、内外の劇場・コンサートホール、アートセンターやアートプロジェクトの調査研究を行う。	

選 択 必 修 科 目	博士専門科目Ⅱ (キュレーションⅠ)	グローバル時代の日本のキュレーターとして、日本の現代美術と視覚芸術を国際的な視座で言説化するため、先行研究を題材に、文献購読と参加者の発表によって行う。比較として他のアジア諸国の近代芸術がどのように言説化されていったかをあわせて検証する。特に日本戦後美術をテーマとする参加者にはこれにもなって博士論文筆のための指導を行う。 文献例 カタログ、J前衛の日本(ポンピドゥセンター1989) Japon des avant gardes 1910-1970 ,japanorama-contemporary japanese art and visual culture after 1970(ポンピドゥメツ2017)	
	博士専門科目Ⅱ (キュレーションⅡ)	アジアの現代美術に関する先行研究を題材に、文献購読と参加者の発表によって議論をおこなう。 文献例:Contemporary Art in Asia,Edited by Melissa Chiu and Benjamin Genocchio, MIT Press, 2011 など	
	博士専門科目Ⅱ (リサーチⅠ)	最近の欧米圏の芸術文化における批判理論の動向を探りつつ研究の最先端で議論になっている文献を講読するとともに、21世紀における社会と文化芸術のあり方を検証する。また参加者の研究の進捗状況を定期的に報告する場として演習を活用し、博士論文執筆のための指導を行う。	
	博士専門科目Ⅱ (リサーチⅡ)	「地域の時代」「文化の時代」提言から、ほぼ10年間をスパンとして、重要な地域文化政策が立案されている。政策の特徴として、文化芸術団体への助成や文化財の保護と伝承といった「伝統的」な文化行政から、ある目標をもちそれに沿った支援的行政が行われたことや政策資源の内容がインフラ整備から、ソフト中心主義へと変わったことにある。ここでは、文化を対象とした政策科学を学ぶが、もともと政策科学は戦後のアメリカ行政学の影響の下、行政システムの行政活動面である「意志決定論」が中心課題であるので、文化政策の面での行政分野、関連団体の文化に関する意思決定課程を文献等で文献等を基に議論するほか、博士論文執筆のための基礎的知識・手法を学ぶ。	
	博士特別研究Ⅰ (アートマネジメントⅠ)	学生個々人がおのおのの研究題目に沿って具体的な企画の実践を試みる。 授業では、現場での実践活動において設定されたリサーチの進捗状況を共有しつつ、主に文化活動の内部に焦点を絞り、①プログラミング(企画の形式、アーティストの選定など)、②広報(媒体ごとのヴィジュアル分析)、③渉外(地域社会へのアプローチ)など、他事例との比較を通じて、マネジメントの手法と効果の関連を分析する。	
	博士特別研究Ⅰ (アートマネジメントⅡ)	博士論文執筆を視野に入れた実践研究を行う。具体的には、コンサートホール拠点の公演企画制作(コンセプトデザイン、プログラミング、プロジェクトミーティングおよびアーティストとの折衝や調整を中心としたプロデュース過程、実際の公演・イベントに向けての周知や印刷物製作、ステージ関連の諸作業表、運営マニュアル等の作成などの実務)、コミュニティ活動を実践的に行っている公共ホールやアーツセンターでのインターンシップ活動の観察研究、コミュニティ活動に必要な姿勢、知識、ノウハウを講座形式で行うトレーニングプログラムの構築、その際の教材となるコミュニティ・プログラムハンドブック編纂や、演奏家学生のための集中型コミュニティ・プログラムワークショップ企画等の実践活動を行う。	
	博士特別研究Ⅰ (キュレーションⅠ)	「人新世(アントロポセンAnthropocene)」の時代にあって、芸術や文化が自然、社会、精神、情報という4つのエコロジーの総括的なシステムの中でどのような役割や新たな方法論をもちうるのかをリサーチや共同プロジェクトなどの実践を通して検証する。特定の研究分野にあるディシプリンとシステムを調査、協働することを通して、アートのキュレーションの方法論と思考形式を拡張しつつ、これを論文およびキュレーションに反映させる。	
	博士特別研究Ⅰ (キュレーションⅡ)	実際に企画された展覧会や図録を題材に、理論/鑑賞体験/プロジェクトマネジメントなど異なる角度から検討を加える。事例として、Documenta 13/14, Marce Cunningham: Common Time, Walker Art Center, 「フードスケープ 私たちは食べ物でできている」(アーツ前橋)、東京国立近代美術館コレクション展示等。	

選 択 必 修 科 目	博士特別研究Ⅰ (リサーチⅠ)	フィールドワークという手法は主として20世紀に入って文化人類学や都市社会学の中で発達した。調査地に入って調査者が綿密に民族誌(エスノグラフィ)を書くという手法は、量的調査では捉えきれない細かな人間関係、とりわけ文化や芸術の生成や消費を描き出すことに使われたが、時代の変遷とともにその手法は変化してきている。また民族誌という手法そのものが現在では単なる方法ではなく、一つの理論的な実践として関心を集めている。ここでは、古典的著作を通じてその歴史的發展を検証しながら、自らの研究に位置づける。	
	博士特別研究Ⅰ (リサーチⅡ)	90年代当初のバブル経済崩壊後頃から、「地域づくり」が強調され、その後の地方自治体の施政をみると過疎対策、少子高齢化対策、地域経済政策など地域活性化が中心となった観があり、そのための手法としての文化活用が重要な政策資源となっている。文化芸術のももとの特徴として、批判性・創造性があるが地域活性化を目標とするため、文化芸術の性質自体を歪めさせるような事態が生じている地域もある。以上の視点から、地方自治を定める地方行政制度内での地域文化を巡る制度について文献等を基に議論するほか、博士論文執筆のための基礎的知識・手法を学ぶ。	
	博士特別研究Ⅱ (アートマネジメントⅠ)	学生個々人がおのおのの研究題目に沿って具体的な企画の実践を試みる。 授業では、現場での実践活動におけるリサーチの成果や課題を共有しつつ、主に文化活動の外側に目を向け、①評価システムの構築、②アウトカム効果やインパクト効果の指標設定、③文化政策との整合性(条例や振興計画からのブレイクダウン)など、他事例との比較を通じて、社会的波及効果に関する分析をおこなう。	
	博士特別研究Ⅱ (アートマネジメントⅡ)	1年次の博士特別研究Ⅰに引き続き、実践研究を行う。また、実践活動の成果や知見を内外の専門紙誌に論考として投稿、実践活動に基づいたシンポジウムを企画する等、研究結果の発信活動を行う。	
	博士特別研究Ⅱ (キュレーションⅠ)	理論と実践およびキュレートリアル実践が社会や文化のエコロジーの中でどのような意味をもちうるのかを意識化させながら、各自が展覧会、またはプロジェクトを企画作成する。協力者、作家、インスティテューションなど、どのような展覧会のエコシステムが経済的な計画も含めて成立しているかを基準として評価されたものを実施する。 特別研究と平行して得たネットワークや方法論を反映して、各自のテーマにあわせた展覧会、ワークショップ、プロジェクト、シンポジウムなどを実践する。	
	博士特別研究Ⅱ (キュレーションⅡ)	参加者各自が理論と実践を相互補完的に組み合わせ、研究テーマをもとに展覧会等の企画を作成する。その企画が、国内外の専門的なネットワークや来場者、ステークホルダーに対してどのようなインパクトを持つかを検証し、提案として評価されたものは適宜実施する。	
	博士特別研究Ⅱ (リサーチⅠ)	新しいテクノロジーの方法と人文社会学全体の変容に伴って、映像やコンピュータなど新しいメディアを用いた質的調査や論文以外の実験的な研究発表が最近行われるようになった。ここでは、近年の調査方法とドキュメンタリー映像や展覧会などの発表形式の変遷を考察した上、実践のシミュレーションを行う。	
	博士特別研究Ⅱ (リサーチⅡ)	公共財の特徴は、私的財と異なり無料で提供される商品・サービスでその経費が税金で支払われている点にある。従って、個々人が受け取る便益と費用負担者との直接の関係はないので、個々人に着目した費用効果分析は使用できない。従って、イベント等の地域社会への経済的な波及効果測定は、通常「産業連関分析(input-output analysis)」でマクロ的に行われる。ここではその分析モデルを使用して、文化芸術活動の地域経済への波及効果の分析手法と知識を学び、博士論文執筆のための準備とする。	
	研究領域特別研究指導	博士論文の執筆指導を行なう。 <b>【アートマネジメント研究領域】</b> 美術、音楽、映像などさまざまな領域のアートマネジメントに関して、高度な理論に裏付けられた体系的な研究やその研究に基づく高度な実践に関する博士論文の指導を行なう。  (アートマネジメントⅠ)(1) 熊倉 純子 学会誌や専門誌への投稿論文および学位論文のブラッシュアップは、個別指導をおこなう。	

	<p>研究領域特別研究指導</p>	<p>(アートマネジメントⅡ)(6 箕口(渡辺)一美) ひとりひとりの資質と能力、関心を活かし、世界のアートマネジメントの現況についての幅広い情報収集、学会発表や音楽祭等のイベントへの参加を通じた国際人脈の構築、現役プロデューサー、ディレクター等の招聘講師とのディスカッションおよびプロジェクト実践の手法を用いて、実演芸術機関(公共ホール、アートセンター等)におけるアーツ・アドミニストレーションの実際と展望、アジア型ホール 運営の将来像、国際的・地域間連携を実現するアーティスト・プラットフォーム構想等の課題の研究指導を行う。</p> <p><b>【キュレーション研究領域】</b> 様々な規模、多様な環境における展覧会に関して、高度な理論に裏付けられた体系的な研究やその研究に基づく高度な実践に関する博士論文の指導を行なう。</p> <p>(キュレーションⅠ)(4 長谷川(金子)祐子) 国際展のキュレーションの実践を中心として、デザイン、建築、映画、演劇など他の芸術表現領域とアートとの関係や科学、民族学、心理学、社会学、歴史、現代思想やそれらにまつわるリサーチとアート関係等の課題に関する博士論文の執筆指導を行なう。</p> <p>(キュレーションⅡ)(5 住友 文彦) 芸術学や視覚文化論の手法を用いた、現代美術におけるキュレーション、美術館、美術と社会の関係、情報メディア論に関する博士論文の執筆指導を行なう。</p> <p><b>【リサーチ研究領域】</b> 芸術文化を中心とした社会科学研究、芸術文化を取り巻く社会やメディア文化研究、文化経済学の理論や新しい芸術文化領域の創造について、高度な理論に裏付けられた体系的な研究に関する博士論文の指導を行なう。</p> <p>(リサーチⅠ)(3 毛利 嘉孝) 文化社会学、芸術社会学、文化研究、メディア研究、現代日本文化研究などに関して、国内外の学会誌や専門誌への投稿、映像社会学、映像人類学、展覧会展示など新しい研究成果の発表方法の指導を含めて、博士論文の執筆指導を行う。</p> <p>(リサーチⅡ)(2 枝川 明敬) 文化政策、地域文化振興、文化経済学に関して、博士論文指導を行う。</p>	
--	-------------------	--	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の場合、定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。